



JF

PATENT

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re the application of)	
Toshie IMAI et al.)	Examiner: Not Assigned
Application No. 10/717,305)	Art Unit: Not Assigned
Filed: November 18, 2003)	Docket No. MIPFP066
For: AUTOMATIC TRIMMING)	Date: June 24, 2004
OF IMAGE DATA)	

CERTIFICATE OF MAILING

I hereby certify that this correspondence is being deposited with the United States Postal Service as First Class Mail in an envelope addressed to: Commissioner for Patents, Alexandria, VA 22313-1450 on June 24, 2004.

Signed:

Diane Schwanbeck
Diane Schwanbeck

SUBMISSION OF CERTIFIED COPIES OF PRIORITY DOCUMENTS

Commissioner for Patents
Alexandria, VA 22313-1450

Sir:

In connection with Applicants' claim for priority under 35 U.S.C. § 119, and pursuant to 35 U.S.C. § 119(b)(3), Applicants hereby submit certified copies of (1) Japanese Patent Application No. 2002-333109, which was filed on November 18, 2002; and (2) Japanese Patent Application No. 2003-379560, which was filed on November 10, 2003.

Respectfully submitted,
MARTINE & PENILLA, LLP

Peter B. Martine

Peter B. Martine
Reg. No. 32,043

710 Lakeway Drive, Suite 170
Sunnyvale, CA 94085
Telephone: (408) 749-6900
Customer No. 25920

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 2 年 1 1 月 1 8 日
Date of Application:

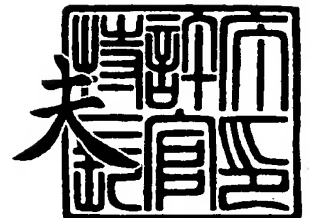
出 願 番 号 特 願 2 0 0 2 - 3 3 3 1 0 9
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 2 - 3 3 3 1 0 9]

出 願 人 セイコーエプソン株式会社
Applicant(s):

2 0 0 3 年 1 0 月 2 7 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康



U.S. Application No. 10/717,305

出証番号 出証特 2 0 0 3 - 3 0 8 8 4 1 2

【書類名】 特許願

【整理番号】 PA04F331

【提出日】 平成14年11月18日

【あて先】 特許庁長官 太田 信一郎 殿

【国際特許分類】 H04N 1/38

【発明者】

【住所又は居所】 長野県諏訪市大和三丁目3番5号 セイコーエプソン株式会社内

【氏名】 今井 敏恵

【発明者】

【住所又は居所】 長野県諏訪市大和三丁目3番5号 セイコーエプソン株式会社内

【氏名】 小泉 孝彦

【特許出願人】

【識別番号】 000002369

【氏名又は名称】 セイコーエプソン株式会社

【代理人】

【識別番号】 110000028

【氏名又は名称】 特許業務法人 明成国際特許事務所

【代表者】 下出 隆史

【電話番号】 052-218-5061

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 133917

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0105458

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 画像データの自動トリミング処理

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 画像生成装置で生成された画像データと、前記画像データに関連付けられた画像生成履歴情報とを用いて、画像を出力する出力装置であって、

前記画像生成履歴情報に基づいて、前記画像データに対してトリミングを実行するか否かを判断した上でトリミングを実行する画像データ処理部と、

前記画像データ処理部によって処理された画像データに応じて画像を出力する画像出力部と、
を備える、出力装置。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の出力装置であって、

前記画像生成履歴情報は、露出プログラム情報と撮影シーン情報とを少なくとも含み、

前記画像データ処理部は、前記露出プログラム情報と前記撮影シーン情報とが所定の条件を満たすときにトリミングを実行する、出力装置。

【請求項 3】 請求項 2 に記載の出力装置であって、

前記所定の条件は、前記露出プログラム情報として、デフォルト設定であるノーマルプログラムが選択されていると共に、前記撮影シーン情報として、デフォルト設定である標準シーンが選択されている条件を含む、出力装置。

【請求項 4】 請求項 1 ないし 3 のいずれかに記載の出力装置であって、

前記画像生成履歴情報は、画像における被写体領域を示す被写体領域情報を少なくとも含み、

前記画像データ処理部は、前記被写体領域がトリミングによって切り取られる場合にはトリミングを中止する、出力装置。

【請求項 5】 請求項 1 ないし 4 のいずれかに記載の出力装置であって、

前記トリミングは、指定された画像出力サイズを包含するサイズに、前記画像をアスペクト比を保ったまま拡大または縮小し、前記画像出力サイズからはみ出た部分を切り取る処理である、出力装置。

【請求項 6】 画像生成装置で生成された画像データと、前記画像データに関連付けられた画像生成履歴情報とを用いて、画像を処理する画像データ処理装置であって、

前記画像生成履歴情報に基づいて、前記画像データに対してトリミングを実行するか否かを判断した上でトリミングを実行する画像データ処理部を備える、画像データ処理装置。

【請求項 7】 画像生成装置で生成された画像データと、前記画像データに関連付けられた画像生成履歴情報とを用いて、画像を処理する画像処理方法であって、

前記画像生成履歴情報に基づいて、前記画像データに対してトリミングを実行するか否かを判断した上でトリミングを実行する工程を含む、画像処理方法。

【請求項 8】 画像生成装置で生成された画像データと、前記画像データに関連付けられた画像生成履歴情報とを用いた画像データ処理をコンピュータに実行させるためのコンピュータプログラムであって、

前記画像生成履歴情報に基づいて、前記画像データに対してトリミングを実行するか否かを判断した上で前記コンピュータにトリミングを実行させることを特徴とする、コンピュータプログラム。

【請求項 9】 請求項 8 記載のコンピュータプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、画像のトリミングを行うための技術に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

デジタルスチルカメラで撮影された画像を印刷する際に、その画像とアスペクト比の異なる印刷範囲のみを印刷することがある。その際、印刷範囲外の部分を切り取る処理、いわゆる、トリミングが実行される。（例えば、特許文献 1 参照）。

【0003】**【特許文献1】**

特開平11-331542

【特許文献2】

特開2000-296652

【0004】**【発明が解決しようとする課題】**

しかしながら、従来の技術では、トリミングのオン／オフを一律に選択しているため、問題が生じることがあった。例えば、すべての画像に対してトリミングを実行すると、写真の構図によっては、その写真の重要な対象物（人物など）の一部がトリミングによって切り取られることがある。また、トリミングが実行されることによって、撮影時にユーザが意図した構図が反映されない問題もある。

【0005】

本発明は、上記問題を解決するためになされたものであり、個々の画像データに対してトリミングを実行するか否かの判断を適切に行う技術を提供することを目的とする。

【0006】**【課題を解決するための手段およびその作用・効果】**

上記課題の少なくとも一部を解決するために、本発明による出力装置は、画像生成装置で生成された画像データと、前記画像データに関連付けられた画像生成履歴情報とを用いて、画像を出力する出力装置であって、前記画像生成履歴情報に基づいて、前記画像データに対してトリミングを実行するか否かを判断した上でトリミングを実行する画像データ処理部と、前記画像データ処理部によって処理された画像データに応じて画像を出力する画像出力部と、を備えることを特徴とする。

【0007】

本発明による出力装置は、トリミングを実行するか否かを、画像データに関連付けられた画像生成履歴情報に基づいて判定するため、個々の画像データに対してトリミングを実行するか否かの判断を適切に行うことができる。

【0008】

上記出力装置において、前記画像生成履歴情報は少なくとも、露出プログラム情報と撮影シーン情報とを含み、前記画像データ処理部は、前記露出プログラム情報と前記撮影シーン情報とが所定の条件を満たすときにトリミングを実行することが好ましい。

【0009】

これにより、トリミングを実行するか否かを、前記露出プログラム情報と前記撮影シーン情報とに基づいて判定するため、個々の画像データに対してトリミングのオン／オフを適切に自動設定することができる。

【0010】

また、上記出力装置において、前記所定の条件は、前記露出プログラム情報として、デフォルト設定であるノーマルプログラムが選択されていると共に、前記撮影シーン情報として、デフォルト設定である標準シーンが選択されている条件を含むことが好ましい。

【0011】

上述のような条件は、ユーザが気軽に撮影を行ったこと、すなわち、綿密な構図を設定していないことを示唆している。そのため、その条件を満たしている場合にトリミングを実行することとすれば、個々の画像データに対してトリミングのオン／オフをより適切に自動設定することができる。

【0012】

上記出力装置において、前記画像生成履歴情報は少なくとも、被写体領域情報を含み、前記画像データ処理部は、前記被写体領域がトリミングによって切り取られない場合にトリミングを実行することが好ましい。

【0013】

これにより、トリミングを実行するか否かを、前記被写体領域情報に基づいて判定するため、個々の画像データに対してトリミングのオン／オフを適切に自動設定することができる。

【0014】

なお、この発明は、種々の形態で実現することが可能であり、例えば、画像出

力方法および画像出力装置、画像データ処理方法および画像データ処理装置、これらの方法または装置の機能を実現するためのコンピュータプログラム、そのコンピュータプログラムを記録した記録媒体、そのコンピュータプログラムを含み搬送波内に具現化されたデータ信号、等の形態で実現することができる。

【0 0 1 5】

【発明の実施の形態】

以下、本発明に係る画像ファイルの出力画像処理について以下の順序にて図面を参照しつつ、いくつかの実施例に基づいて説明する。

- A. 画像出力システムの構成：
- B. 画像ファイルの構成：
- C. 画像ファイルを利用可能な画像出力装置の構成：
- D. デジタルスチルカメラにおける画像データ処理：
- E. プリンタにおける画像データ処理：
- F. 自動画像データ処理の実施例：
- G. 画像データ処理装置を用いる画像出力システムの構成：
- H. 変形例：

【0 0 1 6】

- A. 画像出力システムの構成：

図 1 は、本発明の一実施例としての出力装置を適用可能な画像出力システムの一例を示す説明図である。画像出力システム 1 0 は、画像ファイルを生成する画像生成装置としてのデジタルスチルカメラ 1 2 と、画像の出力装置としてのプリンタ 2 0 とを備えている。デジタルスチルカメラ 1 2 において生成された画像ファイルは、ケーブル C V を介したり、画像ファイルが格納されたメモリカード M C をプリンタ 2 0 に直接挿入したりすることによって、プリンタ 2 0 に送出される。プリンタ 2 0 は、読み込んだ画像ファイルに基づいた画像データの処理を実行し、画像を出力する。出力装置としては、プリンタ 2 0 の他に、C R T ディスプレイ、L C D ディスプレイ等のモニタ 1 4、プロジェクタ等を用いることができる。以下、画像データ処理部と画像出力部を備えるプリンタ 2 0 を出力装置として用い、メモリカード M C をプリンタ 2 0 に直接挿入する場合に基づいて説明

する。

【0017】

図2は、デジタルスチルカメラ12の概略構成を示すブロック図である。この実施例のデジタルスチルカメラ12は、光情報を収集するための光学回路121と、光学回路を制御して画像を取得するための画像取得回路122と、取得したデジタル画像を加工処理するための画像処理回路123と、補助光源としてのフラッシュ130と、各回路を制御する制御回路124と、を備えている。制御回路124は、図示しないメモリを備えている。光学回路121は、光情報を集めるレンズ125と、光量を調節する絞り129と、レンズを通過した光情報を画像データに変換するCCD128とを備えている。

【0018】

デジタルスチルカメラ12は、取得した画像をメモリカードMCに保存する。デジタルスチルカメラ12における画像データの保存形式としては、JPEG形式が一般的であるが、この他にもTIFF形式や、GIF形式や、BMP形式や、RAWデータ形式などの保存形式を用いることができる。

【0019】

デジタルスチルカメラ12は、また、種々の撮影条件を設定するための選択・決定ボタン126と、液晶ディスプレイ127とを備えている。液晶ディスプレイ127は、撮影画像をプレビューしたり、選択・決定ボタン126を用いて絞り値等を設定したりする際に利用される。

【0020】

デジタルスチルカメラ12において撮影が実行された場合には、画像データと画像生成履歴情報とが、画像ファイルとしてメモリカードMCに格納される。画像生成履歴情報は、撮影時（画像データ生成時）における絞り値等のパラメータの設定値を含むことが可能である（詳細については後述する）。

【0021】

B. 画像ファイルの構成：

図3は、本実施例にて用いることができる画像ファイルの内部構成の一例を概念的に示す説明図である。画像ファイルGFは、画像データGDを格納する画像

データ格納領域 1 0 1 と、画像生成履歴情報 G I を格納する画像生成履歴情報格納領域 1 0 2 を備えている。画像データ G D は、例えば、J P E G 形式で格納されており、画像生成履歴情報 G I は、例えば、T I F F 形式（データおよびデータ領域がタグを用いて特定される形式）で格納されている。なお、本実施例におけるファイルの構造、データの構造といった用語は、ファイルまたはデータ等が記憶装置内に格納された状態におけるファイルまたはデータの構造を意味するものである。

【 0 0 2 2 】

画像生成履歴情報 G I は、デジタルスチルカメラ 1 2 等の画像生成装置において画像データが生成されたとき（撮影されたとき）の画像に関する情報であり、以下のような設定値を含んでいる。

- ・被写体距離。
- ・被写体距離レンジ。
- ・被写体領域。
- ・露出プログラム。
- ・露出時間。
- ・絞り値。
- ・ I S O スピードレート（ I S O 感度）。
- ・撮影シーン。
- ・メーカー名。
- ・モデル名。
- ・ガンマ値。

【 0 0 2 3 】

本実施例の画像ファイル G F は、基本的に上記の画像データ格納領域 1 0 1 と、画像生成履歴情報格納領域 1 0 2 とを備えていればよく、既に規格化されているファイル形式に従ったファイル構造をとることができる。以下、本実施例に係る画像ファイル G F を E x i f ファイル形式に適合させた場合について具体的に説明する。

【 0 0 2 4 】

Exif ファイルは、デジタルスチルカメラ用画像ファイルフォーマット規格 (Exif) に従ったファイル構造を有しており、その仕様は、日本電子情報技術産業協会 (JEITA) によって定められている。また、Exif ファイル形式は、図 3 に示した概念図と同様に、JPG 形式の画像データを格納する JPG 画像データ格納領域と、格納されている JPG 画像データに関する各種情報を格納する付属情報格納領域とを備えている。JPG 画像データ格納領域は、図 3 における画像データ格納領域 101 に相当し、付属情報格納領域は画像生成履歴情報格納領域 102 に相当する。付属情報格納領域には、撮影日時、絞り値、被写体距離といった JPG 画像に関する画像生成履歴情報が格納される。

【0025】

図 4 は、付属情報格納領域 103 のデータ構造例を説明する説明図である。Exif ファイル形式では、データ領域を特定するために階層的なタグが用いられている。各データ領域は、下位のタグによって特定される複数の下位のデータ領域を、その内部に含むことができる。図 4 では、四角で囲まれた領域が一つのデータ領域を表しており、その左上にタグ名が記されている。この実施例は、タグ名が APP0、APP1、APP6 である 3 つのデータ領域を含んでいる。APP1 データ領域は、その内部に、タグ名が IFD0、IFD1 である 2 つのデータ領域を含んでいる。IFD0 データ領域は、その内部に、タグ名が PIM、Exif、GPS である 3 つのデータ領域を含んでいる。データおよびデータ領域は、規定のアドレスまたはオフセット値に従って格納され、アドレスまたはオフセット値はタグ名によって検索することができる。出力装置側では、所望の情報に対応するアドレスまたはオフセット値を指定することにより、所望の情報に対応するデータを取得することができる。

【0026】

図 5 は、図 4 において、タグ名を APP1-IFD0-Exif の順にたどることで参照することができる Exif データ領域のデータ構造 (データのタグ名とパラメータ値) の一例を説明する説明図である。Exif データ領域は、図 4 に示すようにタグ名が MakerNote であるデータ領域を含むことが可能であり、MakerNote データ領域は、さらに多数のデータを含むことができ

るが、図 5 では図示を省略する。

【0027】

Exif データ領域には、図 5 に示すように、被写体領域と、露出プログラムと、撮影シーンと、絞り値と、ISO スピードレート等の情報に関するパラメータ値が格納されている。

【0028】

本発明の自動画像データ処理の第 1 実施例では、露出プログラム情報および撮影シーン情報を用いる。露出プログラム情報は、マニュアル、ノーマル、露出優先、シャッター優先、クリエイティブ、アクション、ポートレート、ランドスケープのいずれかのプログラムを、撮影状況に応じて適宜選択することが可能であり、デフォルト設定としてノーマルプログラムが選択されている。一方、撮影シーン情報は、標準、風景、人物、夜景のいずれかのシーンを、撮影するシーンに応じて適宜選択することが可能であり、デフォルト設定として標準シーンが選択されている。

【0029】

本発明の自動画像データ処理の第 2 実施例では、被写体領域情報を用いる。図 6 は、画像 500 における被写体領域 510 を示した図である。図示したように、被写体領域は、画像の左上を原点とした中心の座標と、領域の直径とで表される。また、被写体領域は矩形の領域でもよく、その場合、領域の範囲は、高さと同幅とで表される。被写体情報は、被写体領域を規定するそれらの情報を保持している。

【0030】

画像データに関連付けられた情報は、図 4 における Exif データ領域以外の領域にも適宜格納される。例えば、画像生成装置を特定する情報としてのメーカー名やモデル名は、タグ名が IFD0 であるデータ領域に格納される。

【0031】

C. 画像出力装置の構成：

図 7 は、本実施例のプリンタ 20 の概略構成を示すブロック図である。プリンタ 20 は、画像の出力が可能なプリンタであり、例えば、シアン C と、マゼンタ

Mgと、イエロYと、ブラックKとの4色のインクを印刷媒体上に吐出してドットパターンを形成するインクジェット方式のプリンタである。また、トナーを印刷媒体上に転写・定着させて画像を形成する電子写真方式のプリンタを用いることもできる。インクには、上記4色に加えて、シアンCよりも濃度の薄いライトシアンLCと、マゼンタMgよりも濃度の薄いライトマゼンタLMと、イエロYよりも濃度の濃いダークイエロDYとを用いてもよい。また、モノクロ印刷を行う場合には、ブラックKのみを用いる構成としてもよく、レッドRやグリーンGを用いてもよい。利用するインクやトナーの種類は、出力する画像の特徴に応じて決めることができる。

【0032】

プリンタ20は、図示するように、キャリッジ21に搭載された印刷ヘッド211を駆動してインクの吐出およびドット形成を行う機構と、キャリッジ21をキャリッジモータ22によってプラテン23の軸方向に往復動させる機構と、紙送りモータ24によって印刷用紙Pを搬送する機構と、制御回路30とから構成されている。これらの機構により、プリンタ20は画像出力部として機能する。キャリッジ21をプラテン23の軸方向に往復動させる機構は、プラテン23の軸と平行に架設されたキャリッジ21を揺動可能に保持する揺動軸25と、キャリッジモータ22との間に無端の駆動ベルト26を張設するプーリ27と、キャリッジ21の原点位置を検出する位置検出センサ28等から構成されている。印刷用紙Pを搬送する機構は、プラテン23と、プラテン23を回転させる紙送りモータ24と、図示しない給紙補助ローラと、紙送りモータ24の回転をプラテン23および給紙補助ローラに伝えるギヤトレイン（図示省略）とから構成されている。

【0033】

制御回路30は、プリンタの操作パネル29と信号をやり取りしつつ、紙送りモータ24やキャリッジモータ22、印刷ヘッド211の動きを適切に制御している。プリンタ20に供給された印刷用紙Pは、プラテン23と給紙補助ローラとの間に挟みこまれるようにセットされ、プラテン23の回転角度に応じて所定量だけ送られる。

【0034】

キャリッジ 21 は、印刷ヘッド 211 を有しており、また、利用可能なインクのインクカートリッジを搭載可能である。印刷ヘッド 211 の下面には利用可能なインクを吐出するためのノズルが設けられる（図示省略）。

【0035】

図 8 は、プリンタ 20 の制御回路 30 を中心としたプリンタ 20 の構成を示すブロック図である。制御回路 30 の内部には、CPU 31 と、PROM 32 と、RAM 33 と、メモ리카ード MC からデータを取得するメモ리카ードスロット 34 と、紙送りモータ 24 やキャリッジモータ 22 等とデータのやり取りを行う周辺機器入出力部（PIO）35 と、駆動バッファ 37 等が設けられている。駆動バッファ 37 は、印刷ヘッド 211 にドットのオン・オフ信号を供給するバッファとして使用される。これらは互いにバス 38 で接続され、相互にデータのやり取りが可能となっている。また、制御回路 30 には、所定周波数で駆動波形を出力する発信器 39 と、発信器 39 からの出力を印刷ヘッド 211 に所定のタイミングで分配する分配出力器 40 も設けられている。

【0036】

また、制御回路 30 は、紙送りモータ 24 やキャリッジモータ 22 の動きと同期をとりながら、所定のタイミングでドットデータを駆動バッファ 37 に出力する。さらに、制御回路 30 は、メモ리카ード MC から画像ファイルを読み出し、付属情報を解析し、得られた画像生成履歴情報に基づいて画像処理を行う。すなわち、制御回路 30 は画像データ処理部として機能する。制御回路 30 によって実行される詳細な画像処理の流れについては後述する。

【0037】

D. デジタルスチルカメラにおける画像データ処理：

図 9 は、デジタルスチルカメラ 12 における画像ファイル GF の生成処理の流れを示すフローチャートである。

【0038】

デジタルスチルカメラ 12 の制御回路 124（図 2）は、撮影要求、例えば、シャッターボタンの押し下げに応じて画像データ GD を生成する（ステップ S 1

00)。絞り値や、露出プログラムや、撮影シーン等のパラメータ値の設定がされている場合には、設定されたパラメータ値を用いた画像データGDの生成が行われる。

【0039】

制御回路124は、生成した画像データGDと画像生成履歴情報GIとを、画像ファイルGFとしてメモリカードMCに格納して（ステップS110）、本処理ルーチンを終了する。画像生成履歴情報GIは、絞り値、ISO感度等の画像生成時に用いたパラメータ値や、撮影シーンなどの任意に設定され得るパラメータ値や、メーカー名や、モデル名等の自動的に設定されるパラメータ値を含む。また、画像データGDは、RGB色空間からYCbCr色空間に変換された後、JPEG圧縮され、画像ファイルGFとして格納される。

【0040】

デジタルスチルカメラ12において実行される以上の処理によって、メモリカードMCに格納されている画像ファイルGFには、画像データGDと共に、画像データ生成時における各パラメータ値を含む画像生成履歴情報GIが設定されることとなる。

【0041】

E. プリンタにおける画像データ処理：

図10は、本実施例のプリンタ20における画像処理の処理ルーチンを示すフローチャートである。以下の説明では、画像ファイルGFを格納したメモリカードMCがプリンタ20に直接挿入される場合に基づいて説明する。プリンタ20の制御回路30（図8）のCPU31は、メモリカードスロット34にメモリカードMCが差し込まれると、メモリカードMCから画像ファイルGF（図3）を読み出す（ステップS200）。次にステップS210にて、CPU31は、画像ファイルGFの付属情報格納領域から、画像データ生成時の情報を示す画像生成履歴情報GIを検索する。画像生成履歴情報GIを発見できた場合には（ステップS220：Y）、CPU31は、画像生成履歴情報GIを取得して解析する（ステップS230）。CPU31は、解析した画像生成履歴情報GIに基づいて、後述する画像データ処理を実行し（ステップS240）、処理した画像を出

力して（ステップ S 2 5 0）、本処理ルーチンを終了する。

【0042】

一方、ドローイングアプリケーションなどを用いて生成された画像ファイルには、絞り値などの情報を有する画像生成履歴情報 G I が含まれない。CPU 31 は、画像生成履歴情報 G I を発見できなかった場合には（ステップ S 2 2 0 : N）、標準処理を行い（ステップ S 2 6 0）、処理した画像を出力して（ステップ S 2 5 0）、本処理ルーチンを終了する。

【0043】

F. 自動画像データ処理の実施例：

以下で説明する第 1 および第 2 実施例では、デジタルスチルカメラ（DSC）で撮影した画像を、L 版サイズで縁なし印刷する場合に基づいて説明する。本実施例の DSC で生成される画像のアスペクト比は 3 : 4 であり、L 版サイズのアスペクト比は 3 : 4.415 である。すなわち、DSC の画像の方が L 版よりも縦長であることから、トリミング処理においては、画像の横方向の長さを L 版の横方向の長さに合わせた後に画像の上下を切り取って、印刷のための画像を生成する。一方、トリミングを実行しない通常処理においては、印刷領域内に画像全体が収まるように拡大または縮小して、印刷のための画像を生成する。

【0044】

F1. 第 1 実施例：

図 11 は、第 1 実施例の自動画像データ処理（図 10 においてはステップ S 2 4 0 に相当する）の処理ルーチンを示すフローチャートである。本実施例では、露出プログラム情報および撮影シーン情報に基づいて、トリミングを実行するか否かの判断を行う。まず、CPU 31（図 8）は、画像生成履歴情報 G I を解析し、露出プログラム情報および撮影シーン情報を取得する（ステップ S 4 0 0）。次に、ステップ S 4 1 0 において、CPU 31 は、画像に対してトリミングを実行するか否かの判断を行う。本実施例においては、露出プログラム情報としてノーマルプログラムが選択されていると共に、撮影シーン情報として標準シーンが選択されていることを、トリミングを実行する条件としている。次いで、ステップ S 4 1 0 の判断に基づいて、トリミング処理（ステップ S 4 2 0）もしくは

通常処理（ステップ S 4 3 0）が実行され、この処理ルーチンは終了する。

【0045】

以下では、ステップ S 4 2 0 においてトリミング処理が実行される画像の一例と、ステップ S 4 3 0 において通常処理が実行される画像の一例とを説明する。

【0046】

図 1 2 は、D S C の画像および自動画像データ処理された画像の一例を示す説明図である。図 1 2（A）は、D S C で生成された画像 5 0 0 a を示しており、画像 5 0 0 a 内には、被写体領域 5 1 0 が設定されている。図 1 2（B）および（C）の破線で囲まれた領域は、L 版で印刷する場合の印刷領域を示している。前述したように、トリミングを実行する際には、画像 5 0 0 a を拡大・縮小して、図 1 2（B）に示すように、画像 5 0 0 a の横の長さを L 版の印刷領域に合わせる。この画像 5 0 0 a は、露出プログラム情報＝ノーマルプログラム、撮影シーン情報＝標準シーンという条件で撮影されたものである。一般に、露出プログラム情報および撮影シーン情報がデフォルト設定のままである場合には、撮影者が厳密な構図を意図せずに撮影を行っていることが多く、撮影対象（この例では人物）の周りの背景も広いことが多い。上述の条件から、図 1 2（A）の画像 5 0 0 a は、図 1 1 のステップ S 4 1 0 において、トリミングを実行することが好ましいと判断され、トリミング処理によって上下を切り取られ、図 1 2（C）に示すように、印刷用の画像 5 2 0 が生成される。

【0047】

図 1 3 は、D S C の画像および自動画像データ処理された画像の一例を示す説明図である。図 1 3（A）は、D S C で生成された画像 5 0 0 b を示しており、画像 5 0 0 b 内には、被写体領域 5 1 0 が設定されている。図 1 3（B）および（C）の破線で囲まれた領域は、L 版で印刷する場合の印刷領域を示している。前述したように、トリミングを実行する際には、画像 5 0 0 b を拡大・縮小して、図 1 3（B）に示すように、画像 5 0 0 b の横の長さを L 版の印刷領域に合わせる。この画像 5 0 0 b は、露出プログラム情報＝ノーマルプログラム、撮影シーン情報＝人物シーンという条件で撮影されたものである。一般に、露出プログラム情報および／または撮影シーン情報がデフォルト設定以外に選択されている

場合には、撮影者が厳密な構図を意図して撮影を行っていることが多く、図 13 のように撮影対象（この例では人物）が画像のかかなりの部分にわたっている場合もある。この例では、撮影シーン情報が人物シーンに設定されているので、図 13（A）の画像 500b は、図 11 のステップ S410 において、トリミングを実行しないことが好ましいと判断され、印刷領域内に画像全体が収まるように縮小され、図 13（C）に示すように、印刷用の画像 530 が生成される。この例では、画像 530 の上下左右に余白を設けているが、L 版の印刷領域内に画像 530 が収まっていればよく、例えば、画像 530 の縦の長さを印刷領域の縦の長さに合わせてもよい。

【0048】

このように、本実施例では、トリミングを実行するか否かを、画像データに関連付けられた露出プログラム情報および撮影シーン情報に基づいて判定するため、個々の画像データに対してトリミングを実行するか否かの判断を自動的に行うことができる。

【0049】

F2. 第2実施例：

図 14 は、第 2 実施例の自動画像データ処理（図 10 においてはステップ S240 に相当する）の処理ルーチンを示すフローチャートである。本実施例では、被写体領域情報に基づいて、トリミングを実行するか否かの判断を行う。まず、CPU31（図 8）は、画像生成履歴情報 GI を解析し、被写体領域情報を取得する（ステップ S500）。次に、ステップ S510 において、CPU31 は、トリミングを実行した際に被写体領域が切り取られるか否かを判断する。次いで、ステップ S510 の判断に基づいて、トリミング処理（ステップ S520）もしくは通常処理（ステップ S530）が実行され、この処理ルーチンは終了する。

【0050】

以下では、ステップ S520 においてトリミング処理が実行される画像の一例と、ステップ S530 において通常処理が実行される画像の一例とを説明する。

【0051】

前述した図12の例では、図12（B）からわかるように、トリミングを実行しても被写体領域510は切り取られない。したがって、図12（A）の画像500aは、図14のステップS510において、トリミングを実行することが好ましいと判断され、トリミング処理によって上下を切り取られ、図12の（C）に示すように、印刷用の画像520が生成される。

【0052】

一方、図13の例では、図13（B）からわかるように、トリミングを実行すると被写体領域510の一部が切り取られる。したがって、図13（A）の画像500bは、図14のステップS510において、トリミングを実行しないことが好ましいと判断され、印刷領域内に画像全体が収まるように縮小され、図13（C）に示すように、印刷用の画像530が生成される。

【0053】

このように、本実施例では、トリミングを実行するか否かを、画像データに関連付けられた被写体領域情報に基づいて判定するため、個々の画像データに対してトリミングを実行するか否かの判断を自動的に行うことができる。

【0054】

G. 画像データ処理装置を用いる画像出力システムの構成：

図15は、本発明の一実施例としての画像データ処理装置を適用可能な画像出力システムの一例を示す説明図である。画像出力システム10Bは、画像ファイルを生成する画像生成装置としてのデジタルスチルカメラ12と、画像ファイルに基づいた画像データ処理を実行するコンピュータPCと、画像を出力する画像出力装置としてのプリンタ20Bとを備えている。コンピュータPCは、一般的に用いられているタイプのコンピュータであり、画像データ処理装置として機能する。画像出力装置としては、プリンタ20Bの他に、CRTディスプレイ、LCDディスプレイ等のモニタ14B、プロジェクタ等を用いることができる。以下の説明では、プリンタ20Bを画像出力装置として用いるものとする。本実施例では、画像データ処理部を備える画像データ処理装置と、画像出力部を備える画像出力装置とを、独立に構成している点が、上述の画像出力システム実施例（図1）と異なる。なお、画像データ処理装置としてのコンピュータPCと画像出

力部を備えたプリンタとは、広義の「出力装置」と呼ぶことができる。

【0055】

デジタルスチルカメラ12において生成された画像ファイルは、ケーブルCVを介したり、画像ファイルが格納されたメモリカードMCをコンピュータPCに直接挿入したりすることによって、コンピュータPCに送出される。コンピュータPCは、読み込んだ画像ファイルに基づいた、画像データの画像データ処理を実行する。画像データ処理によって生成された画像データは、ケーブルCVを介してプリンタ20Bに送出され、プリンタ20Bによって出力される。

【0056】

コンピュータPCは、上述の画像データ処理を実現するプログラムを実行するCPU150と、CPU150の演算結果や画像データ等を一時的に格納するRAM151と、画像データ処理プログラムや、ルックアップテーブルや、絞り値テーブルなどの、画像データ処理に必要なデータを格納するハードディスクドライブ(HDD)152を備えている。CPU150と、RAM151と、HDD152とは、画像データ処理部として機能する。さらに、コンピュータPCは、メモリカードMCを装着するためのメモリカードスロット153と、デジタルスチルカメラ12等からの接続ケーブルを接続するための入出力端子154とを備えている。

【0057】

デジタルスチルカメラ12にて生成された画像ファイルGFは、ケーブルを介して、あるいは、メモリカードMCを介してコンピュータPCに提供される。ユーザの操作によって、画像レタッチアプリケーション、または、プリンタドライバといった画像データ処理アプリケーションプログラムが起動されると、CPU150は、読み込んだ画像ファイルGFを処理する画像処理ルーチン(図10)を実行する。また、メモリカードMCのメモリカードスロット153への差し込み、あるいは、入出力端子154に対するケーブルを介したデジタルスチルカメラ12の接続を検知することによって、画像データ処理アプリケーションプログラムが自動的に起動する構成としてもよい。

【0058】

CPU150により処理された画像データは、画像処理ルーチン（図10）のステップS250にて出力される代わりに、画像出力装置、例えば、プリンタ20Bに送出され、画像データを受け取った画像出力装置が画像の出力を実行する。

【0059】

この実施例では、コンピュータPCが備える画像データ処理部を用いて画像処理を行うので、画像データ処理部を備えていない画像出力装置を用いることが可能である。また、画像出力装置が画像データ処理部を備えている場合には、コンピュータPCは画像処理を行わずに画像データを画像出力装置に送出し、画像出力装置の画像データ処理部が画像処理を行う構成としてもよい。

【0060】

以上、説明したように、上述の各実施例では、トリミングを実行するか否かを、画像データに関連付けられた画像生成履歴情報に基づいて自動的に判定するため、個々の画像データに対してトリミングを実行するか否かの判断を自動的に行うことができる。

【0061】

なお、この発明は上記の実施例に限られるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲において種々の形態において実施することが可能であり、例えば、次のような変形も可能である。

【0062】

H. 変形例：

H1. 変形例1：

第1実施例では、露出プログラム情報としてノーマルプログラムが選択されていると共に、撮影シーン情報として標準シーンが選択されていることを、トリミングを実行する条件としているが、他の条件を用いて判断を行ってもよい。例えば、さらに、露出プログラム情報としてノーマルプログラムが選択されていると共に、撮影シーン情報として風景もしくは夜景シーンが選択されていることを、トリミングを実行する条件として加えてもよい。

【0063】

H 2. 変形例 2：

上述の第 1 および第 2 の実施例では、トリミングを実行するか否かの判断を行った後すぐに印刷を実行しているが、印刷を実行する前に、トリミングのオン／オフをユーザに推奨する構成としてもよい。例えば、印刷実行の前に、自動画像データ処理後の画像を推奨画像としてサムネール表示し、ユーザが、それらの画像を確認してトリミングのオン／オフを切り替えられるようにしてもよい。

【0 0 6 4】

H 3. 変形例 3：

上述の第 1 実施例と第 2 実施例とを組み合わせ用いてもよい。例えば、図 1 1 のステップ S 4 1 0 において、トリミング処理を実行すると判断された場合に、さらに、ステップ S 4 2 0 において、図 1 4 の処理ルーチンを実行してもよい。そうすることにより、トリミングを実行すべきか否かの判断を、より確実に行うことができる。

【0 0 6 5】

H 4. 変形例 4：

第 2 実施例において、図 1 3 (A) の画像 5 0 0 b のようにトリミングによって被写体領域 5 1 0 が切り取られる場合に、被写体領域 5 1 0 が切り取られないように印刷領域をずらしてトリミング処理を実行することとしてもよい。例えば、図 1 3 (A) の例では、トリミングを行うと、被写体領域 5 1 0 の上部が切り取られるが、画像の下の部分のみをトリミングによって切り取るよう処理すれば、被写体領域 5 1 0 を損なわずにトリミング処理を実行することができる。なお、第 2 実施例において、被写体領域 5 1 0 の縦のサイズが印刷領域の縦のサイズを超える場合には、上述の処理は不可能であるためトリミングを実行しない。

【0 0 6 6】

H 5. 変形例 5：

上述した実施例では、画像の縦または横方向のサイズを出力サイズに合わせ、はみ出た部分を切り取ることにより、トリミングを行っているが、一般に、トリミングでは、指定された画像出力サイズを包含するサイズに、画像をアスペクト比を保ったまま拡大または縮小し、画像出力サイズからはみ出た部分を切り取る

よう処理を行う。

【0067】

H6. 変形例6：

上記各実施例では、画像出力部としてプリンタを用いているが、プリンタ以外の画像出力部を用いることができる。例えば、CRTディスプレイやLCDディスプレイ、プロジェクタなどを画像出力部として用いてもよい。

【0068】

H7. 変形例7：

上記実施例では、画像ファイルGFの具体例としてExif形式のファイルを例にとって説明したが、本発明に係る画像ファイルの形式はこれに限らず、他の任意の形式をとることが可能である。一般に、画像ファイルは、画像生成装置において生成された画像データと、画像データの生成時条件（情報）を記述する画像生成履歴情報GIとを含んでいればよい。このようなファイルであれば、画像生成装置において生成された画像データを、適切に自動処理して出力装置から出力することができる。また、被写体領域は、上述したExif形式のパラメータに限らず、種々の形式のパラメータやデータで表現することができる。例えば、オートフォーカスのフォーカス位置やフォーカス領域を示すパラメータを使用してもよい。また、撮像時にユーザが任意に被写体領域の位置と形状を指定できる場合には、それらを示すパラメータを被写体領域を表すパラメータとして使用してもよい。

【0069】

H8. 変形例8：

上記実施例では、画像生成装置としてデジタルスチルカメラ12を用いて説明したが、この他にもスキャナ、デジタルビデオカメラ等の画像生成装置を用いて画像ファイルを生成することができる。

【0070】

H9. 変形例9：

上記実施例では、画像データGDと画像生成履歴情報GIとが同一の画像ファイルGFに含まれる場合を例にとって説明したが、画像データGDと画像生成履

歴情報 G I とは、必ずしも同一のファイル内に格納される必要はない。すなわち、画像データ G D と画像生成履歴情報 G I とが関連づけられていればよく、例えば、画像データ G D と画像生成履歴情報 G I とを関連付ける関連付けデータを生成し、1 または複数の画像データと画像生成履歴情報 G I とをそれぞれ独立したファイルに格納し、画像データ G D を処理する際に関連付けられた画像生成履歴情報 G I を参照してもよい。かかる場合には、画像データ G D と画像生成履歴情報 G I とが別ファイルに格納されているものの、画像生成履歴情報 G I を利用する画像処理の時点では、画像データ G D および画像生成履歴情報 G I とが一体不可分の関係にあり、実質的に同一のファイルに格納されている場合と同様に機能するからである。すなわち、少なくとも画像処理の時点において、画像データ G D と画像生成履歴情報 G I とが関連付けられている態様は、本実施例における画像ファイル G F に含まれる。さらに、CD-ROM、CD-R、DVD-ROM、DVD-RAM等の光ディスクメディアに格納されている動画像ファイルも含まれる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の一実施例としての画像出力システムの構成を示すブロック図。

【図 2】 デジタルスチルカメラ 12 の概略構成を示すブロック図。

【図 3】 本実施例にて用いることができる画像ファイルの内部構成の一例を概念的に示す説明図。

【図 4】 付属情報格納領域 103 のデータ構造例を説明する説明図。

【図 5】 E x i f データ領域のデータ構造の一例を説明する説明図。

【図 6】 画像 500 内の被写体領域 510 を示す説明図。

【図 7】 プリンタ 20 の概略構成を示すブロック図。

【図 8】 プリンタ 20 の制御回路 30 を中心としたプリンタ 20 の構成を示すブロック図。

【図 9】 デジタルスチルカメラ 12 における画像ファイル G F の生成処理の流れを示すフローチャート。

【図 10】 プリンタ 20 における画像データ処理の処理ルーチンを示すフ

ローチャート。

【図 1 1】 自動画像データ処理の処理ルーチンを示すフローチャート。

【図 1 2】 D S C で生成された画像および印刷用の画像の一例を示す説明図。

【図 1 3】 D S C で生成された画像および印刷用の画像の一例を示す説明図。

【図 1 4】 自動画像データ処理の処理ルーチンを示すフローチャート。

【図 1 5】 画像データ処理装置を適用可能な画像出力システムの一例を示す説明図。

【符号の説明】

- 1 0 …画像出力システム
- 1 0 B …画像出力システム
- 1 2 …デジタルスチルカメラ
- 1 4 …モニタ
- 1 4 B …モニタ
- 2 0 …プリンタ
- 2 0 B …プリンタ
- 2 1 …キャリッジ
- 2 2 …キャリッジモータ
- 2 3 …プラテン
- 2 4 …モータ
- 2 5 …回転軸
- 2 6 …駆動ベルト
- 2 7 …プーリ
- 2 8 …位置検出センサ
- 2 9 …操作パネル
- 3 0 …制御回路
- 3 1 …C P U
- 3 2 …P R O M

3 3 … R A M
3 4 … メモリカードスロット
3 5 … 周辺機器入出力部
3 7 … 駆動バッファ
3 8 … バス
3 9 … 発信器
4 0 … 分配出力器
1 0 1 … 画像データ格納領域
1 0 2 … 画像生成履歴情報格納領域
1 0 3 … 付属情報格納領域
1 2 1 … 光学回路
1 2 2 … 画像取得回路
1 2 3 … 画像処理回路
1 2 4 … 制御回路
1 2 5 … レンズ
1 2 6 … 選択・決定ボタン
1 2 7 … 液晶ディスプレイ
1 2 8 … C C D
1 2 9 … 絞り
1 3 0 … フラッシュ
1 5 0 … C P U
1 5 1 … R A M
1 5 2 … H D D
1 5 3 … メモリカードスロット
1 5 4 … 入出力端子
2 1 1 … 印刷ヘッド
5 0 0 … 画像
5 0 0 a … 画像
5 0 0 b … 画像

5 1 0 …被写体領域

5 2 0 …画像

5 3 0 …画像

C V …ケーブル

G D …画像データ

G F …画像ファイル

G I …画像生成履歴情報

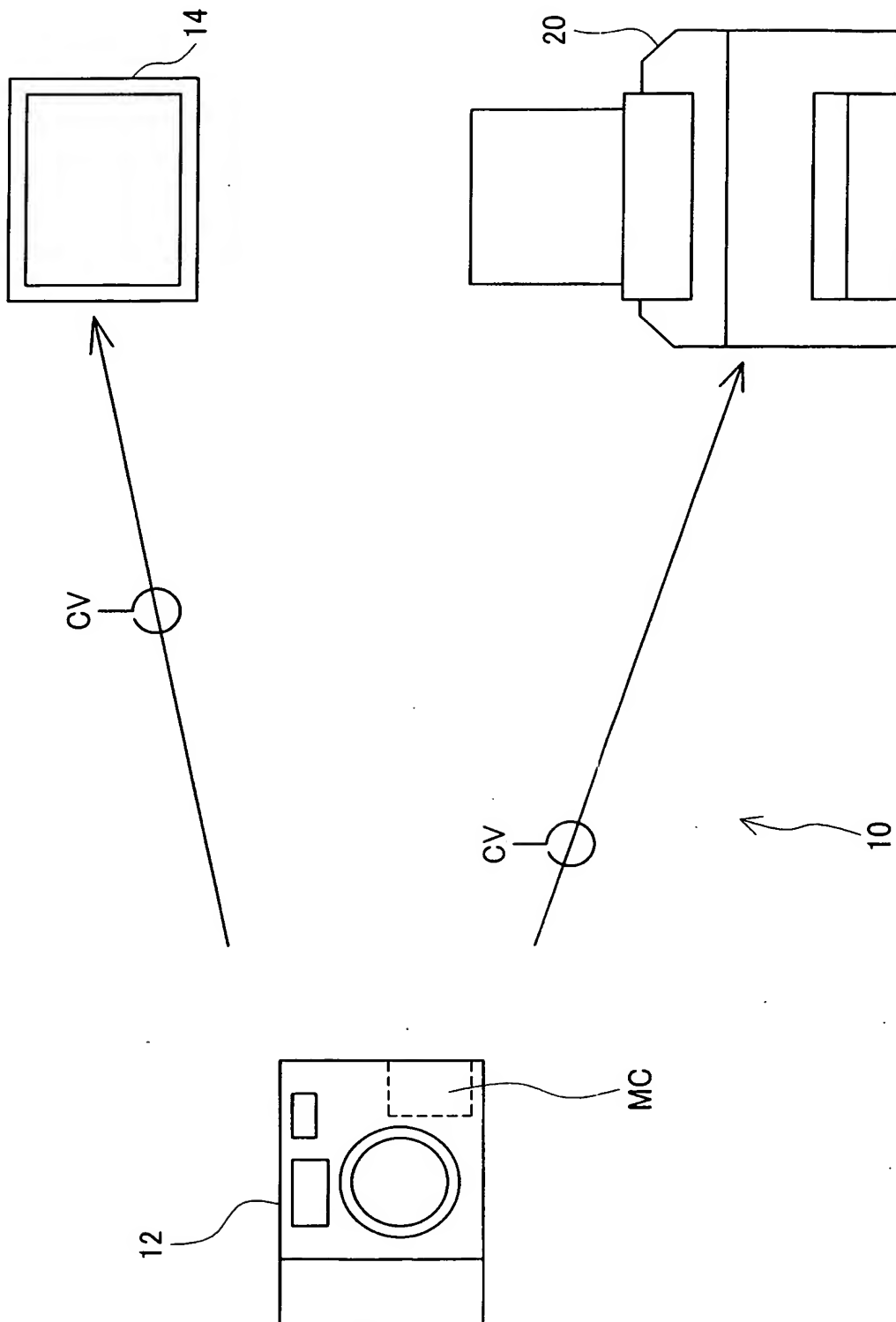
M C …メモリカード

P …印刷用紙

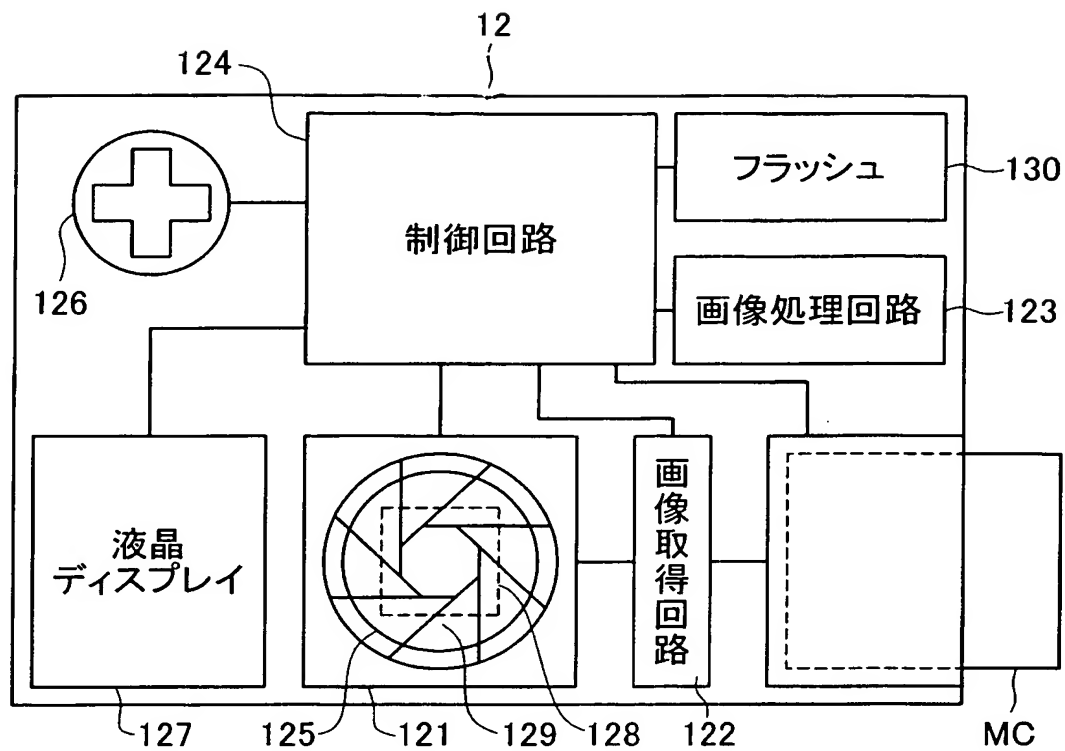
P C …コンピュータ

【書類名】 図面

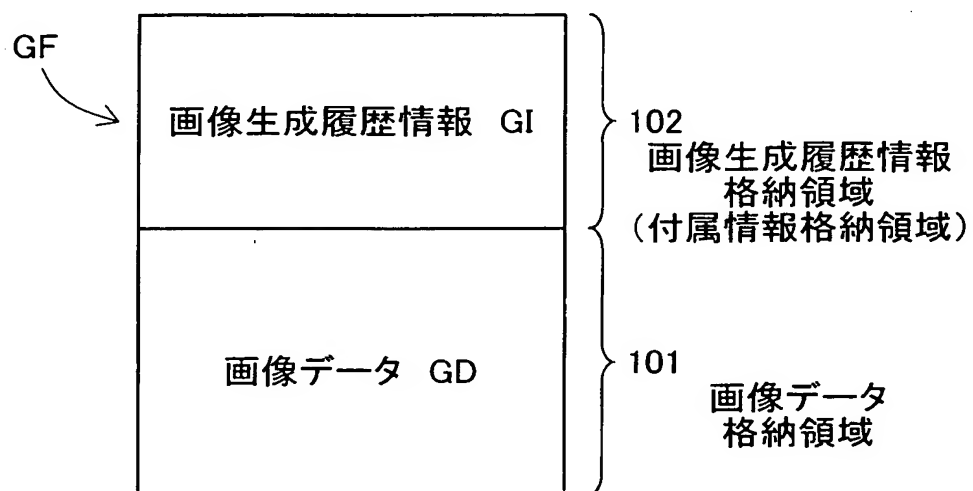
【図 1】



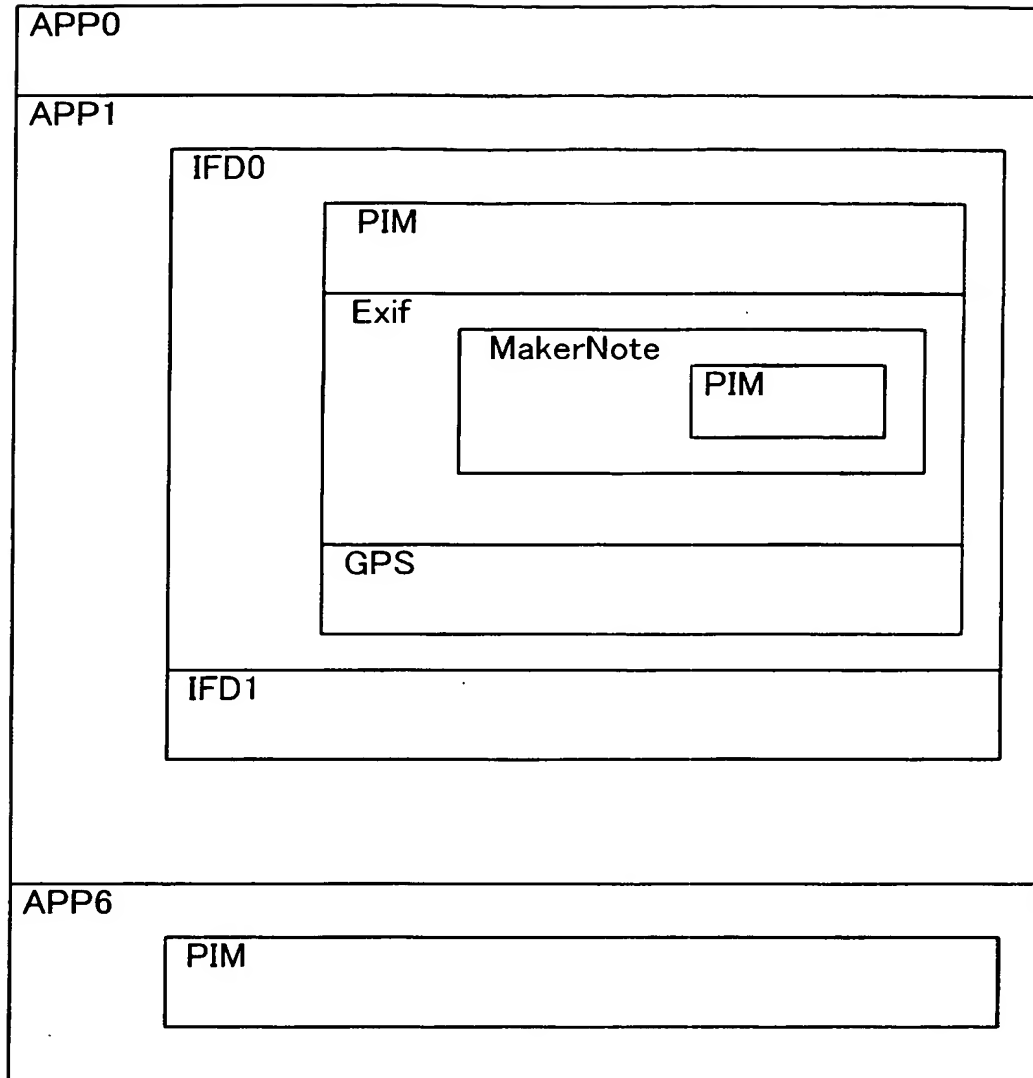
【図 2】



【図 3】



【図 4】



•
•
•

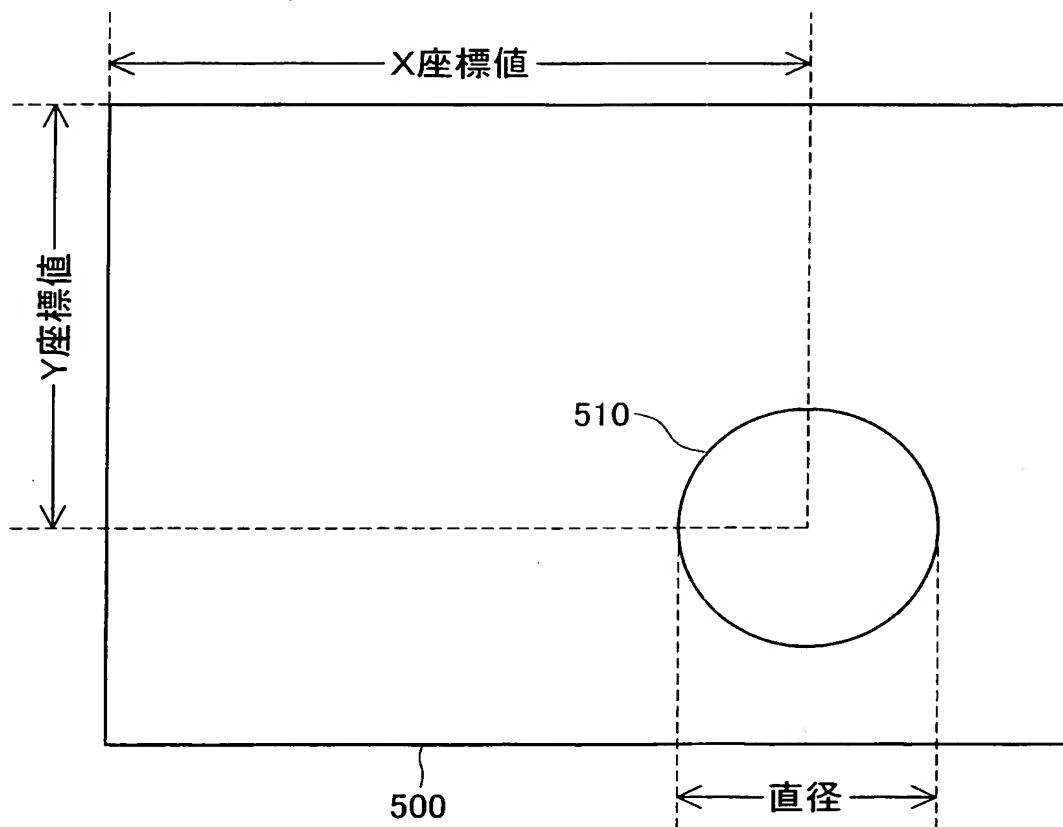
↑
103

【図 5】

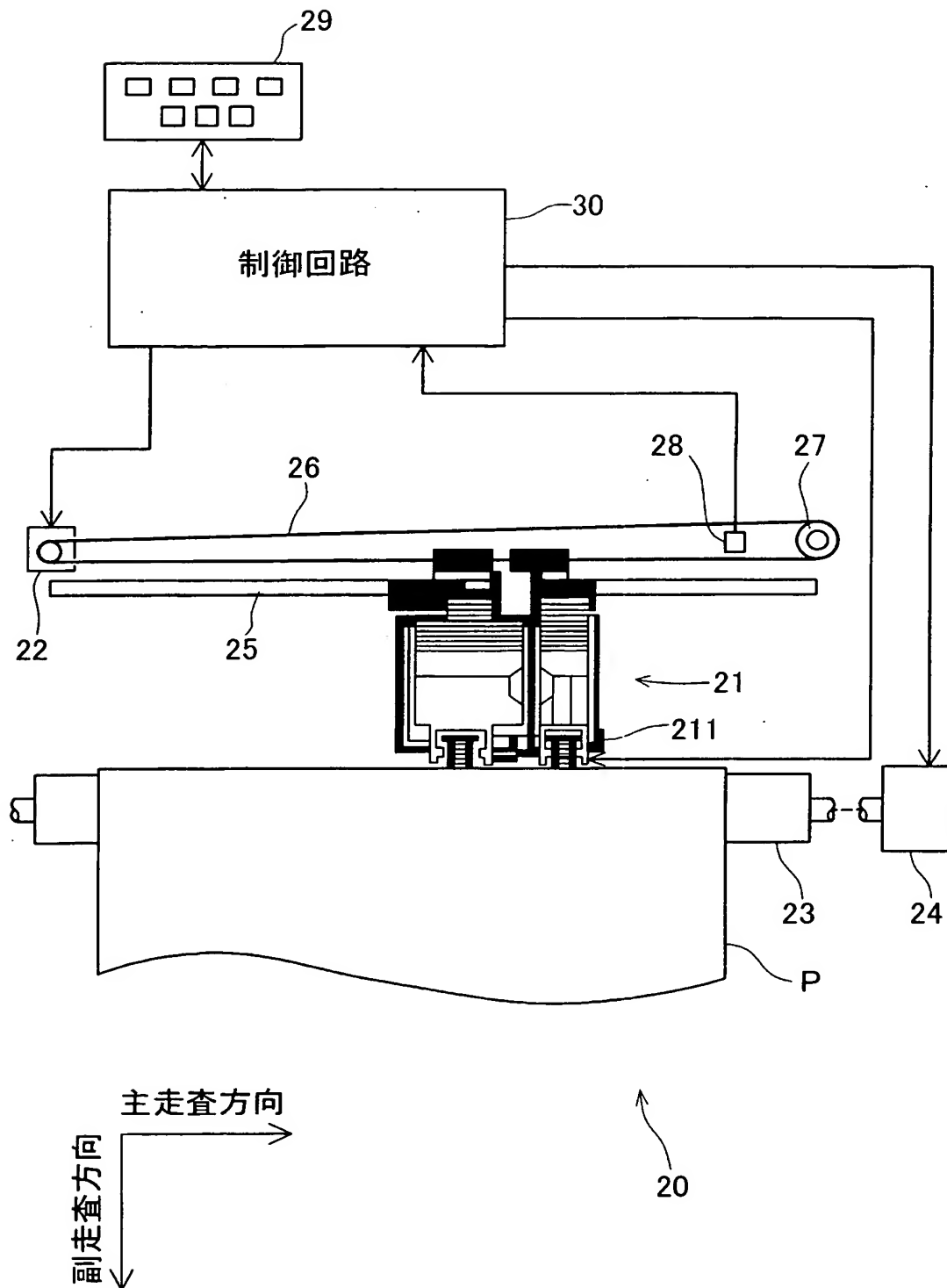
タグ名	パラメータ値
被写体領域	・被写体の位置 ・被写体の領域
露出プログラム	ノーマル
撮影シーン	標準
絞り値	F8
ISOスピードレート	100

・
・
・
・
・

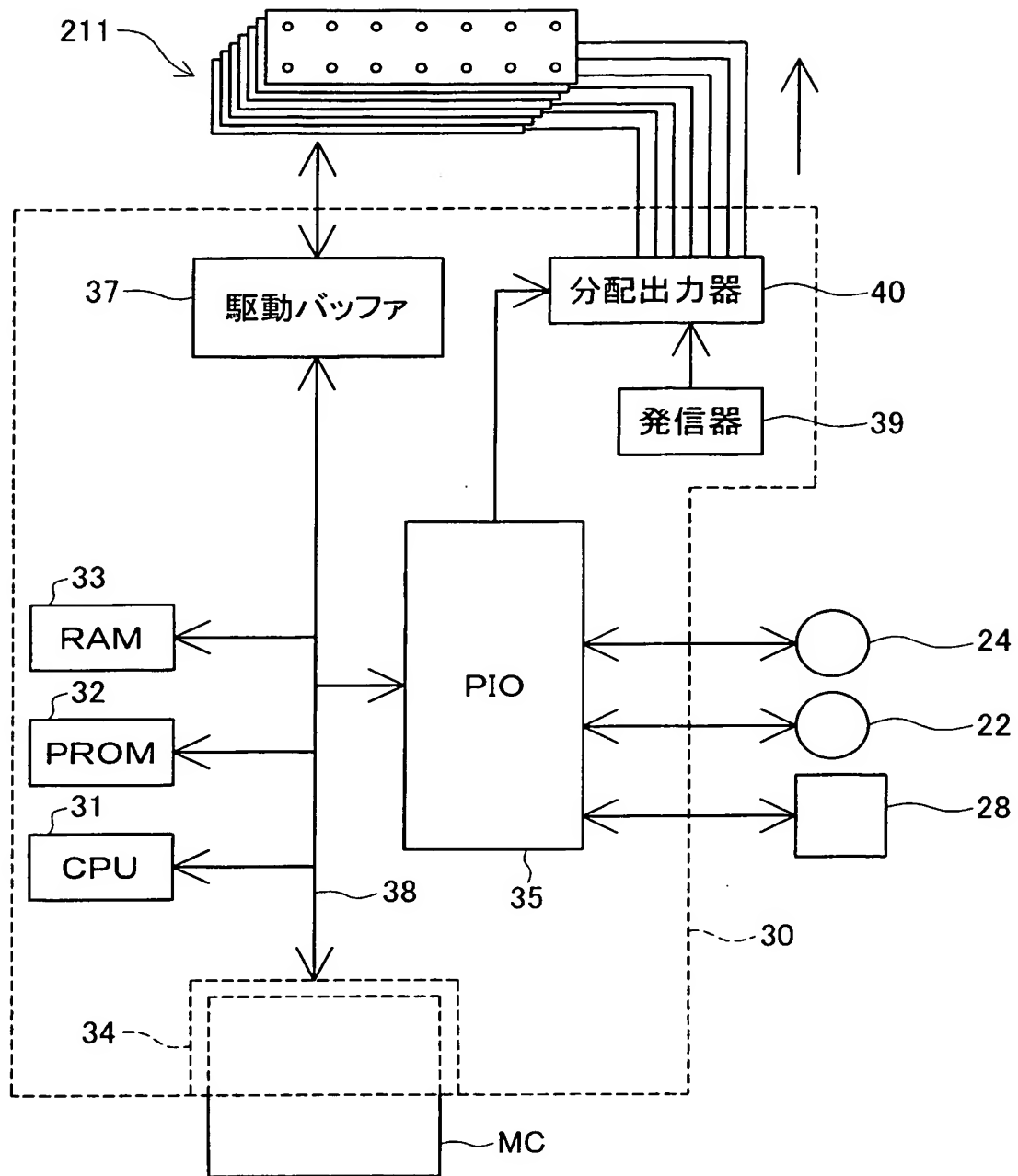
【図 6】



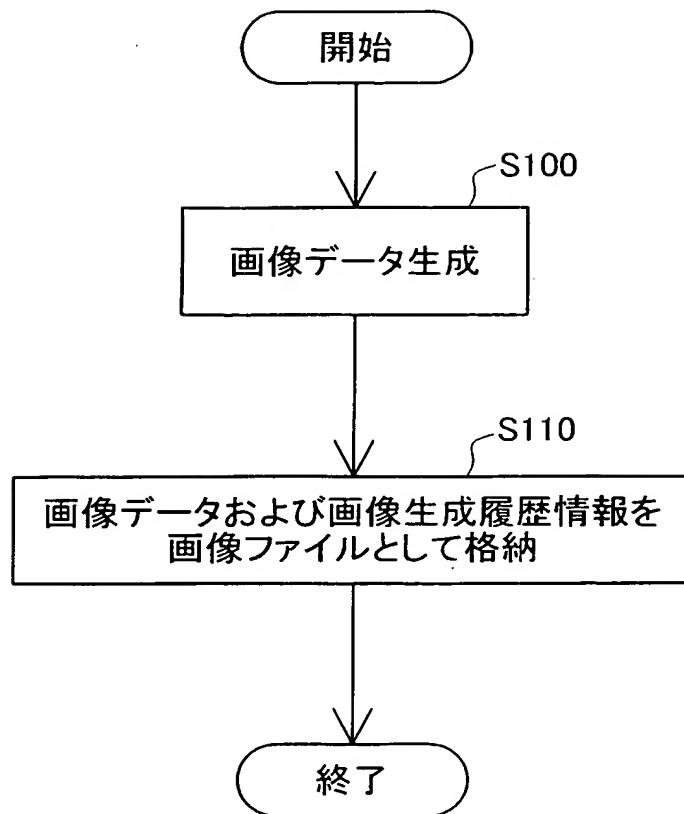
【図 7】



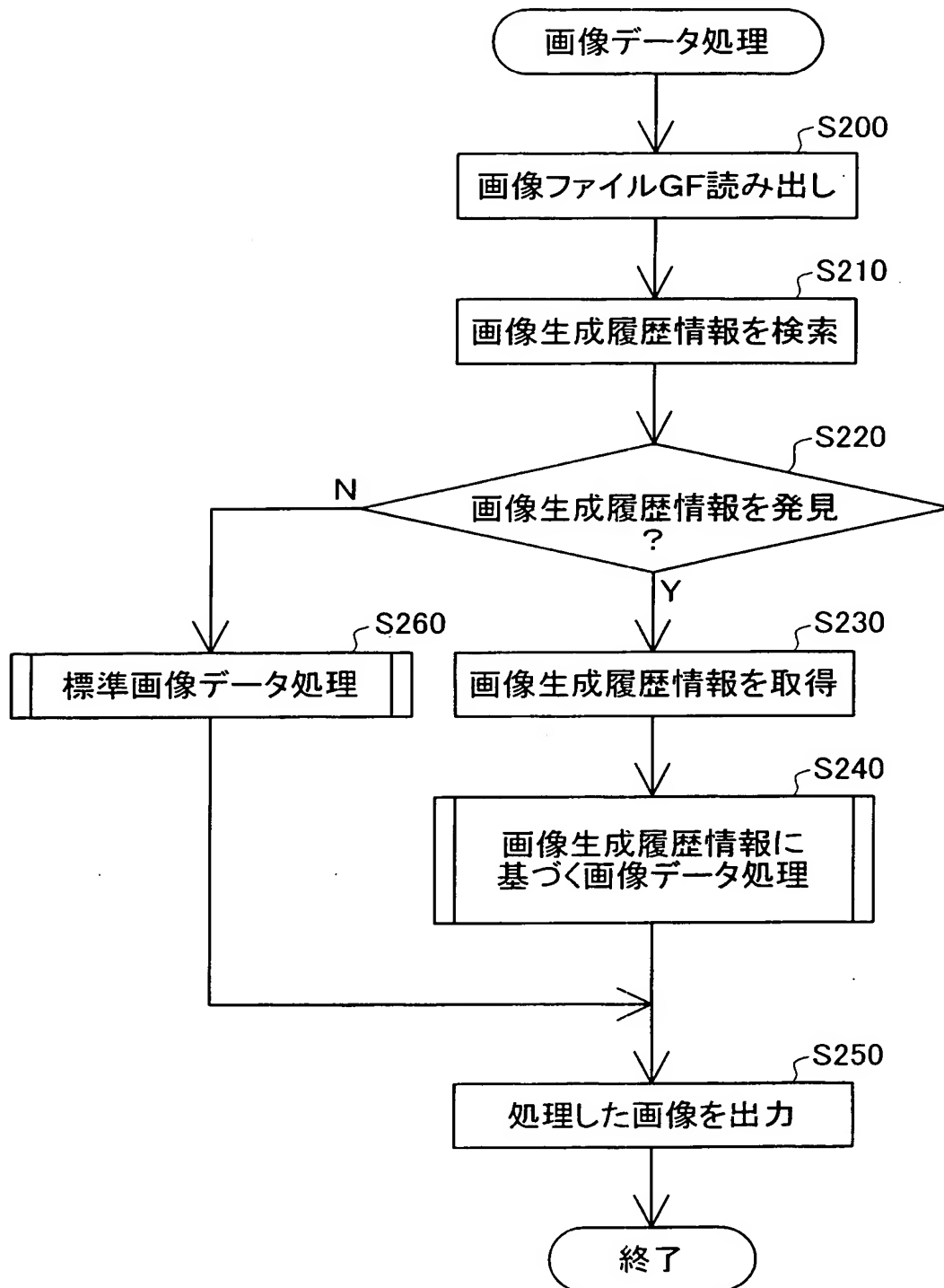
【図 8】



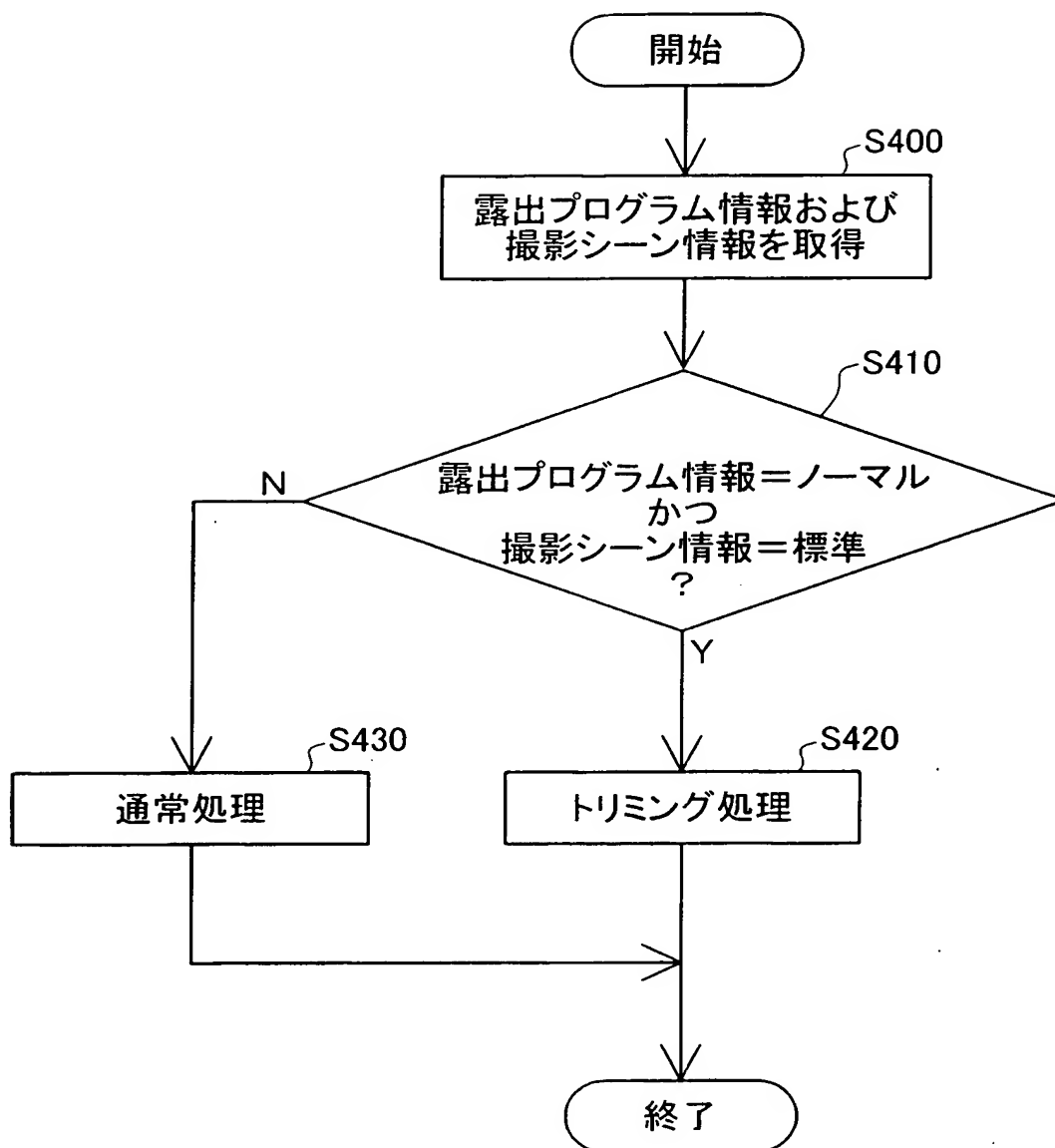
【図 9】



【図 10】

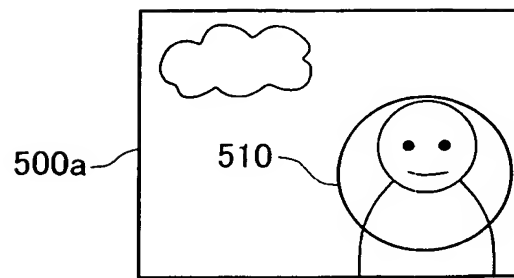


【図 11】



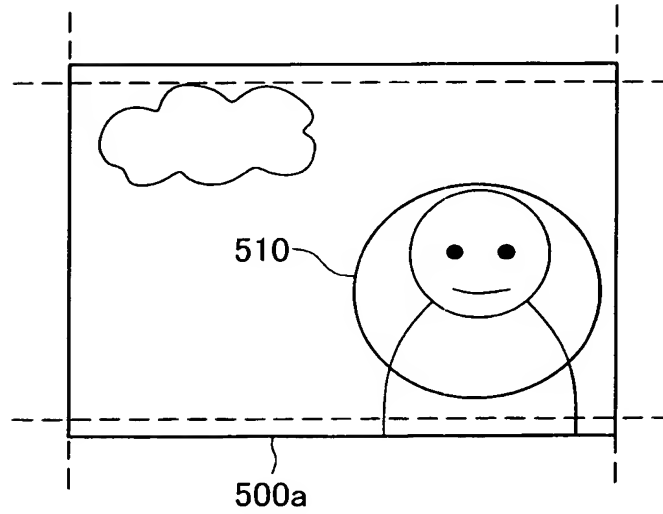
【図 12】

(A)

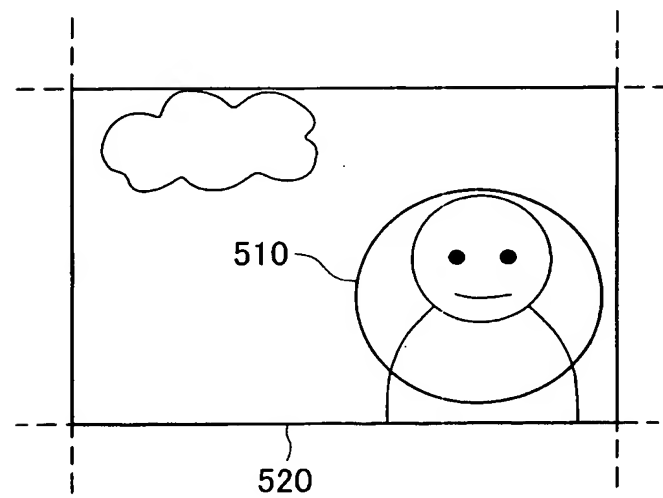


拡大・縮小

(B)

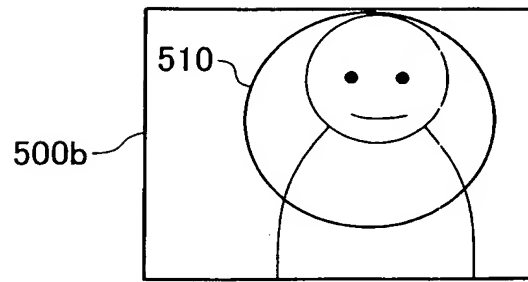


(C)



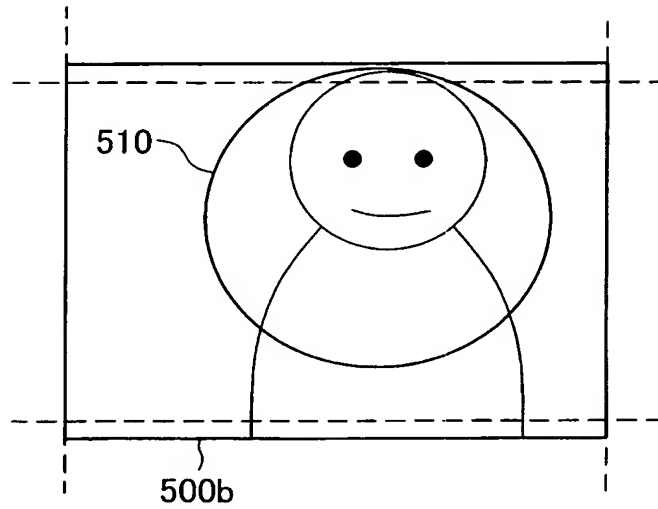
【図 13】

(A)

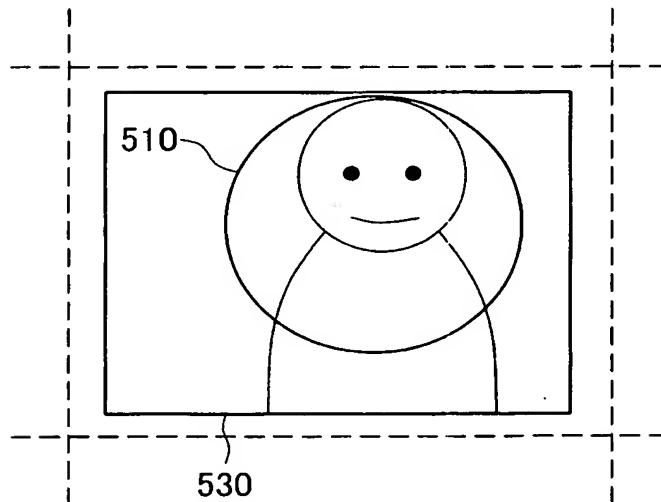


拡大・縮小

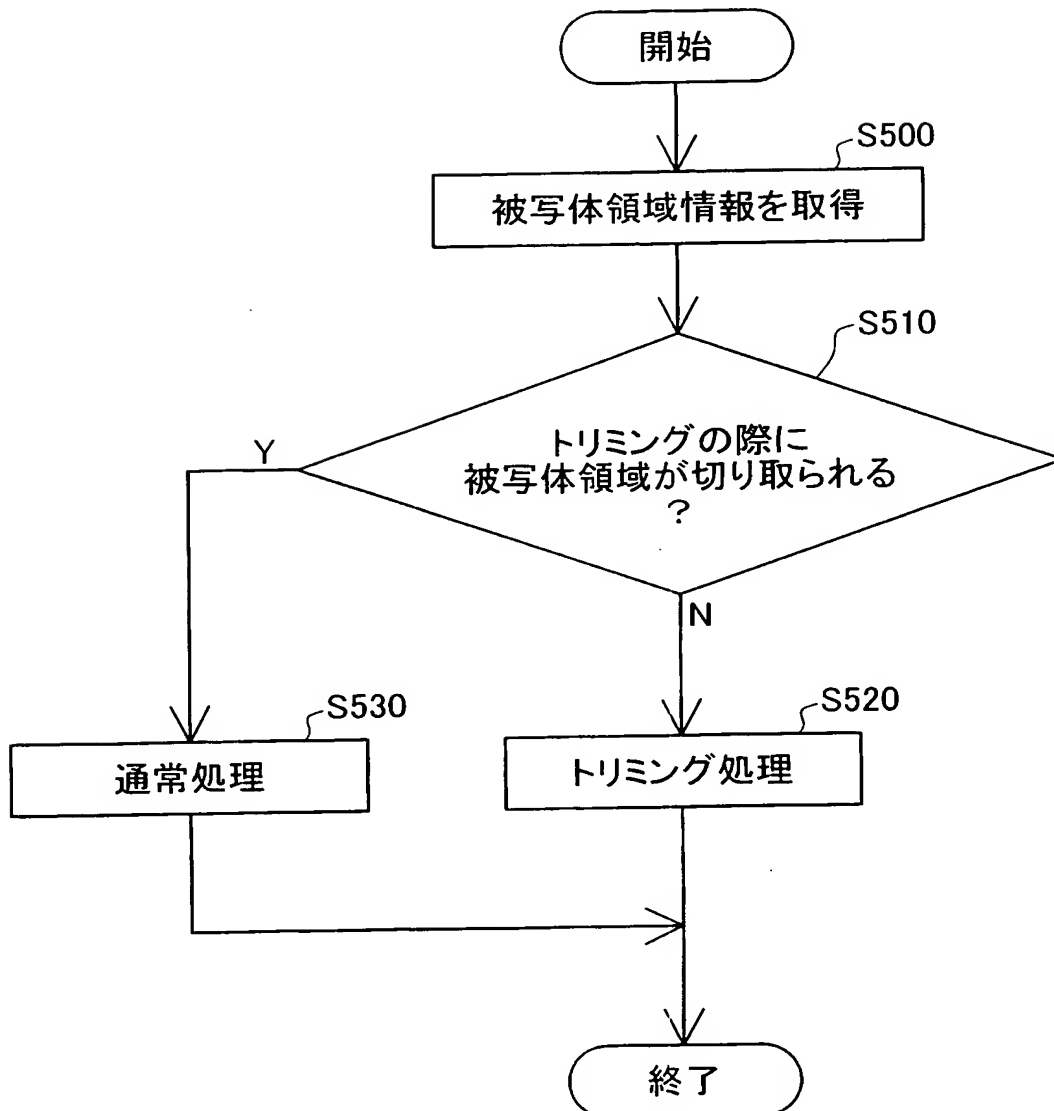
(B)



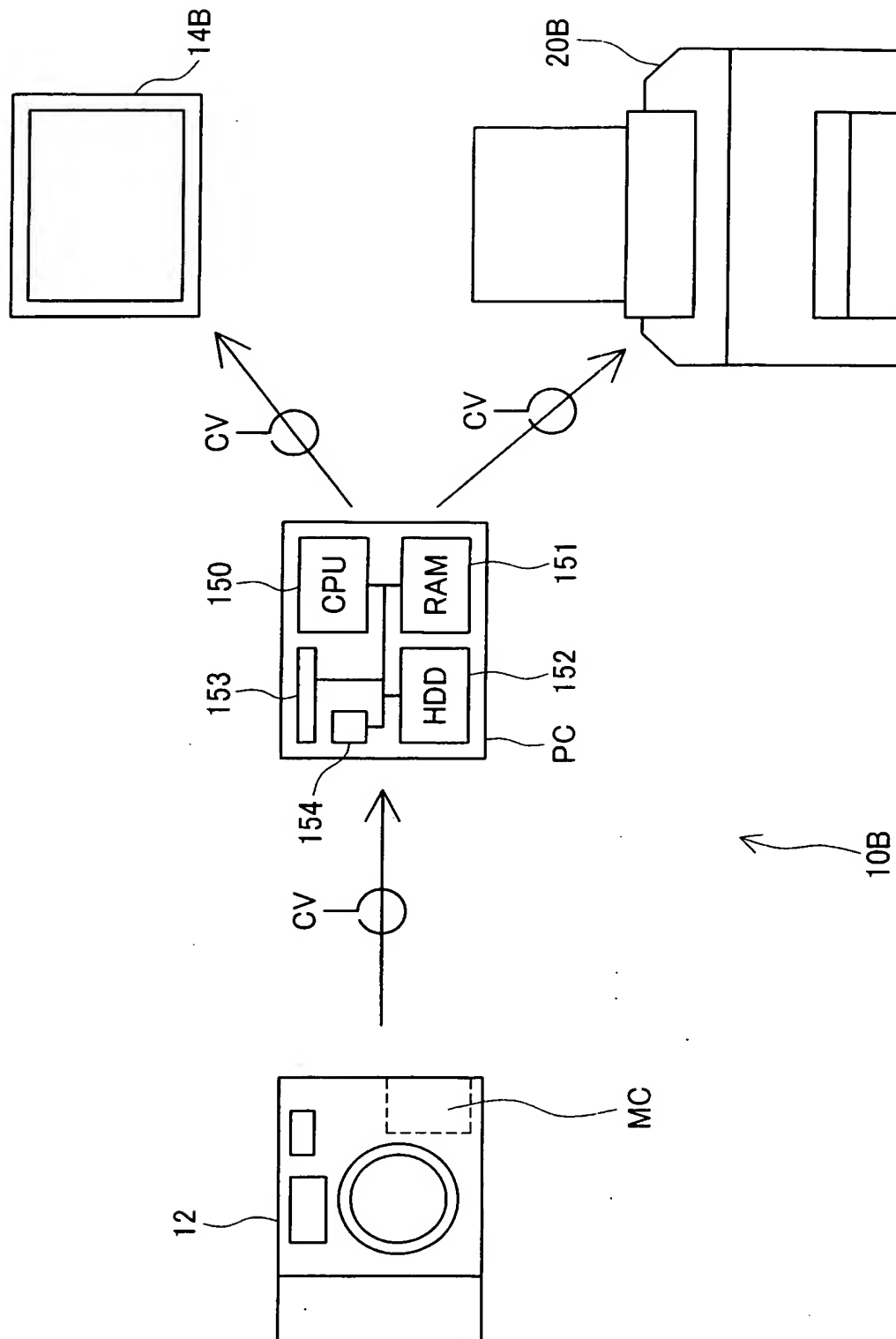
(C)



【図 14】



【図 15】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 画像データに対してトリミングを実行するか否かを自動的に判断する

。

【解決手段】 画像データに関連付けられた画像生成履歴情報を用いて、トリミングを実行するか否かを適切に判断する。画像生成履歴情報としては、露出プログラム情報および撮影シーン情報、または、被写体領域情報などを用いる。

【選択図】 図 1 2

特願 2 0 0 2 - 3 3 3 1 0 9

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 2 3 6 9]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 2 0 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都新宿区西新宿 2 丁目 4 番 1 号

氏 名

セイコーエプソン株式会社